

10月

↓アジュール舞子の草花・花木 10月

フヨウ 芙蓉

幹はよく枝分かれして上だけではなく横にも枝がよくはり、こんもりと茂る。夏から秋にかけて最大直径15cmほどの花を咲かせます。花色は品種によって白～ピンクまで色幅(濃淡)があります。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花です。

スイフヨウ 酔芙蓉

7月から10月に咲くアオイ科の花。花の特徴は、八重咲きの品種が多いが、一重のものもある。花は5弁の一日花で、花の色が朝は白、午後は桃色、夕方は紅色に変化する。

ムクゲ 木槿

アオイ科フヨウ属の落葉樹。すらっとした直立した樹形。花は一重咲き、半八重咲き、八重咲きのものがある。色は白、濃紅、濃紫、青紫、ピンクなどがあります。花は短命で朝咲いたらその日の夕方にはしぼんでしまう一日花です。



181006・H5



181012・Q3



181006・M5



181027・H5



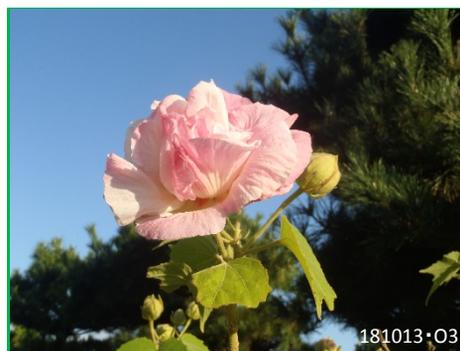
181013・O3



181013・H5



181013・H5



181013・O3



181013・H5



181013・H5



181020・O3

フヨウとムクゲ

- ・フヨウ(芙蓉)とムクゲ(木槿)は同じアオイ科フヨウ属の樹木で、花の咲く時期や姿形も何となく似通っているので間違えることがよくあります。
- ・フヨウはよく枝分かれて上だけでなく横にも枝がよくはりこんもりと茂る。
- ・ムクゲはすらっと直立した樹形になります。
- ・葉や花もフヨウの方がムクゲよりも明らかに大きいので、案外ちゃんと見れば見分けが付きます。

蕾

実

↓アジュール舞子の草花・花木 10月

アベリア

低木で、春～秋のかなり長期に渡って、鐘形の小さい花を多数咲かせる。花の香りは非常に強い。日本列島の関東以西では真夏の酷暑の時期に花をつける在来植物が少ないため、この時期にはアベリアの花に多様なハチやチョウが吸蜜に集まる。



アベリア・ホ・プレイズ

7～10月に咲くスイカズラ科の花。花の特徴は枝先に円錐花序(下のほうになるほど枝分かれする回数が多く、全体をみると円錐形になる)を出し、白ないし淡い紅色を帯びた花をつける。



ナワシログミ

枝の先は、しばしば棘になる。マツ林などの明るい二次林や林縁などに生育している。葉の表面には星状の毛が点々とあり、独特の模様となっている。果実は4月から5月の「苗代」を作るころに赤熟するので、ナワシログミの名がある。



ヤマハギ 山萩

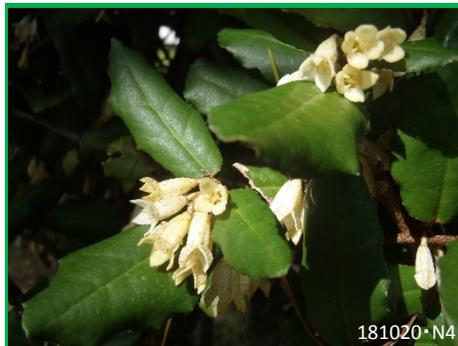
萩は日本人には古くから愛されており、万葉集にもたくさん読まれている落葉性低木です。山萩は広く日本全土の山や野原に生える。枝はほとんどしだれない。木葉の形は楕円形で先端がややへこむことがあります。



ローズマリー

地中海沿岸に分布する常緑性の低木です。強い芳香があってハーブとして利用される。

葉っぱは3cm程の短い棒状で濃緑色、表面には光沢があります。冬から秋にかけて葉の付け根に淡紫色の花を咲かせます。満開時は枝がたくさんの花で彩られます。



↓アジュール舞子の草花・花木 10月



181006・J5

アレチヌスビトハギ

荒地盗人萩

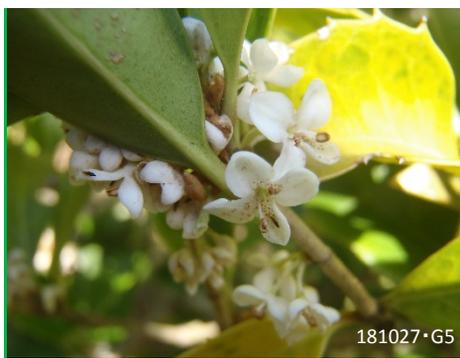
マメ科ヌスビトハギ属(マメ科だがハギ属でないハギ) 比較的近年になって入ってきた帰化植物です。花には目のような白い点が2つと果実は三角形の独特な形状で、一つの莢に5個前後の豆が付いています。引っ付き虫です。



181027・G5

コデマリ 小手毬

中国原産の落葉低木で、名前は小さな手毬状の花姿に由来します。日本でも古くから知られており、「スズカケ(鈴掛)」の古名があり、5枚の花びらをもつ径7mm程の小花がまとまって咲き、およそ3cmの手毬状になります。



181027・G5

バイカウツギ 梅花空木

ユキノシタ科バイカウツギ属の落葉低木。

6月～7月に枝先に白いさわやかな花を咲かせます。また、茎が中空のためにウツギの名前がついています。



181007・I5



181006・G5



ヒツキ虫

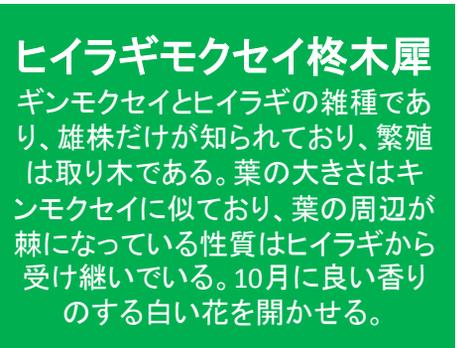
181006・G5



181020・Q3

シモツケ 下野

バラ科シモツケ属の落葉低木。地際からたくさんの枝を出して広がり、葉は長楕円形で長さ5cm～10cm、秋に紅葉します。主な開花期は晩春～初夏、淡い紅色の小さな花をたくさん咲かせます。



181020・O3



181007・N4

ヒラギモクセイ 柘木犀

ギンモクセイとヒラギの雑種であり、雄株だけが知られており、繁殖は取り木である。葉の大きさはキンモクセイに似ており、葉の周辺が棘になっている性質はヒラギから受け継いでいる。10月に良い香りのする白い花を開かせる。



181007・N7

サルスベリ 百日紅

春に伸びた枝の先端に夏から秋にかけて花を咲かせます。花色は白、ピンク、紅、紅紫などがあります。樹皮のはがれた部分はつるつるしているところから、「猿も滑って落ちる→猿滑り」というのが、名前の由来とされています。

クコ 枸杞

ナス科の落葉低木で、食用や薬用に利用される。開花期は夏から初秋で、直径1cmほどの小さな薄紫色の花が咲く。果実は1cm~1.5cmほどの楕円形で、赤く熟す。

コバノランタナ

小葉のランタナ

コバノランタナは桃色や白色の花を咲かせる匍匐性の低木です。ランタナと同じ仲間ですが南アフリカ原産の植物で寒さにはあまり強くありませんが、暖地では庭植えで越冬させる事ができます。



181013・H5



181006・I5



181006・O2

キョウチクトウ

インド原産。葉は長楕円形で、両端がとがった形。やや薄くて固い。花は、およそ6月より残暑の頃である9月まで開花する。ピンク、黄色、白など多数の園芸品種があり、八重咲き種もある。



181020・I5

ランタナ

真ん丸に咲く花の色が少しずつ変化していくのが特徴。基本種は咲き始めがオレンジ色で徐々に黄色に変化していきます。その様子からシチヘンゲ(七変化)の別名がついています。



181020・M4

マルバシャリンバイ

丸葉車輪梅

葉が丸いシャリンバイです。花は白~薄紅色で、晩春に梅に似た花を咲かせます。晩夏~秋に黄緑色の球形の果実を成らせその後熟して黒くなります。



181006・R3



181020・M4



181013・I5

↓アジュール舞子の草花・花木 10月



アセビ 馬酔木

馬が食すと酔ったように苦しむことに由来します。茎葉に有毒物質のアセボトキシンが含まれており人間が誤って口にすると腹痛、嘔吐などの症状を起こすことがあります。春にスズランのような甘い香りのする白い花を楽しむことができます。



シャリンバイ車輪梅

バラ科シャリンバイ属の常緑低木。小枝を車輪状に出して、5月に梅に似た白い花を咲かせることからシャリンバイの名前があります。花後には直径1cmほどの球形の実を付け、10月頃に熟して黒紫色になります。



タチバナモドキ



ネムノキ 合歡の木

ネムノキは東北地方以南に生育する落葉の高木。梅雨の終わりから盛夏にかけて咲く花は繊細で美しい。長く伸びた糸状のものはおしべである。独特の花弁を持つマメの花とちがう印象があって、独立の科に分類する意見もある。

クロガネモチ 黒鉄鷄

5月～6月にごく淡い紫色がかった小さな花を咲かせます。花自体は小さく目立ちませんが花後に1cm足らずの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実を付けた秋の姿は非常に美しく冬までその姿を楽しむことができます。

ハマゴウ

海岸に生育する常緑の低木。本州・四国・九州からアジア東南部から南大西洋、オーストラリアにも分布している。葉の裏面には灰白色の毛が密生しており、白い。夏に美しい唇形の花を咲かせる。花冠は長さ1～1.5cmで青紫色。



ピラカンサ

ピラカンサはトキワサンザシ、タチバナモドキ、カザンデマリ等のバラ科トキワサンザシ属の種類の総称。

常緑性の低木で、春に白い小花を咲かせ、秋から冬にかけて赤や柿色の果実をたわわに実らせる。

タラヨウ 多羅葉

モチノキ科モチノキ属の常緑高木。雌雄異株で、花期は4～5月頃、4mmほどの小さな淡黄緑色の花が群れて咲く。秋には8mmほどの小さな球形の赤い実がなる。葉の裏面を傷つけると字が書けることから

「葉書」の語源ともいわれ、「郵便局の木」と定められ各地の郵便局に植栽されています。



↓アジュール舞子の草花・花木 10月



181020-Q2



181020-J5



181020-J5

ニシキギ 錦木

枝に「翼(よく)」と呼ばれるコルク質の羽が付くのが特長。春に淡緑色の小さな花を咲かせます。秋になると果実が熟して裂け、中から赤橙色の種子が顔を出します。紅葉は非常に美しいですが、カエデ類と比べると落葉が早く鑑賞期間が短いのが少し難点です。



181006-K5

カンツバキ 寒椿

カンツバキとはサザンカとツバキの交雑種です。



181027-G5

ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間は200品種を越える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこのヤブツバキと、その変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけです。」「つばき」の語源は、厚葉木(あつばき)または艶葉木(つやばき)といわれている。



181006-F5



181027-G5



181020-J5



181020-F5



181027-G5



181020-J5

フェイジョア

南米を原産、冬も葉が落ちない常緑性の樹木で果実を食用とする果樹です。5月～6月に径4cmほどの花を咲かせます。花びらは外側が白で内側が暗紫色、真っ赤な糸を束ねたような多数の雄しべが花の中心から放射状に伸び、非常に目立ちます。果実は最初緑色で熟すと赤く色づいてきて、中秋～晩秋が食べ頃になります。

↓アジュール舞子の草花・花木 10月



アラカシ 粗樫

いわゆる「ドングリの木」の代表的な樹種であり、特に西日本に多く、関西地方ではごく一般的に庭木として使われる。枝の出方が荒いこと、幹に割れ目が多くて粗い感じがすること、材が堅いことなどから「粗い堅し」→「アラカシ」と呼ばれるようになった。

トベラ 扉

4~5月になると枝先に芳香のある白い小さな花をたくさん咲かせて丸い果実ができます。果実は10月頃に熟して3つに裂け、ねばねばとして糸を引いた赤いタネが中から出てきます。雌雄異株で果実は雌株にのみできます。

ソシンロウバイ

素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みたいな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。



ユズリハ 譲葉

葉は厚くて光沢があり色は濃い緑色で葉と枝をつなぐ軸(葉柄)の部分が赤味を帯びています。新旧の葉の世代交代がユズリハの場合「若葉が生えそろったら→古い歯が一斉に枯れ落ちる」というふうに短期間にはっきりしています。

マサキ

葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざぎざが入り、革のような光沢があり厚めです。夏に緑がかかった白色の小花を咲かせ、冬には赤い実を付けます。熟した実は3~4つに裂けて、中から赤黄色の種子が現れます。

ウバメガシ 姥目樫

沿岸地域の急傾斜地などに生育するカシの仲間の常緑樹。ウバメガシは備長炭とよばれる良質の木炭の原料として重用されました。名前の由来は新芽が茶色いためという。「ばべ」あるいは「ばべがし」とも呼ばれています。



ベニカナメチ 紅要藜

春先に葉が紅葉し、冬に緑色となる一風変わったバラ目バラ科カナメモチ属の常緑広葉木小高木です。春~初夏、泡を吹いたように白い小さな五弁花を枝先に多数つけて散房状花序を形成します。レッド・ロビンとも呼ばれています。

↓アジュール舞子の草花・花木 10月



マリーゴールド

主に春にタネをまき、夏～秋に花を楽しみ、冬前には枯れる一年草です。花色は黄色、オレンジ、赤など暖色系が多いですが、珍しいものでは白やクリーム色の花も知られています。

ユリオプスデージー

南アフリカ原産の常緑低木です。小さいうちは草花のような姿ですが、年を経ると茎は太くなって表面がごつごつした樹木らしい姿になります。葉は羽状に深く切れ込んで表面に柔らかい毛が密生し、灰白色に見えます。冬～春の花の少ない時期に一重の黄色い花を咲かせます。



オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフォセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります



コスモス 秋桜

コスモスはキク科コスモス属の総称で、日本の秋の風物詩となっているコスモスは、コスモス・ピピンナツという種類で、メキシコの標高1600m以上の地域に自生しています。このコスモス・ピピンナツは日が短くなると花弁を付ける短日植物なので、夏に種をまき秋に花を楽しみます。

ガゼニア

主な開花期は初夏～秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさかせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。



↓アジュール舞子の草花・花木 10月

マツバギク 松葉菊 (サボテンギク)

ハマミズナ科マツバギク属の多年草。
葉は松葉のように棒状で、菊をイメージさせるような花を咲かせる。
花はピンク、白、オレンジ、黄、紫、赤など多彩で、朝に花が開き夕方に花が閉じる。



ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋が付きまゝ。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。



ベゴニア

シュウカイドウ科シュウカイドウ属に属する植物の総称。原種を交配し、多くの種や品種がつくられたため、それらの性質は多様である。
共通する特徴は、葉の形が左右非対称であること、花は雌雄別であり雄花は4枚、雌花は5枚の花びらをもつことなどである。



ペチュニア

初夏から秋にかけて咲く草花で、夏の花壇には欠かせない植物の一つです。品種改良も多く、500種以上の園芸品種があります。大輪、中輪、小輪種があり、八重咲き、一重咲きなどのバラエティーもあります。別名「ツクバナアサガオ」とも言います。



ハナカタバミ(オキサリス)

南アフリカ原産で江戸時代に観賞用に導入された球根草。10-11月に葉腋から花柄をだし、3cm程の淡紅色の5弁花をつける。良く似る仲間にイモカタバミやムラサキカタバミがある。ハナカタバミは花が大きく、中心は淡緑色で葯は黄色、ムラサキカタバミは中心の色が淡黄緑色で葯は白色、イモカタバミは中心部が紅紫色で葯が黄色。



シバザクラ 芝桜

北米西部原産の毎年咲く多年草です。茎は立ち上がらずに横に這うように広がって4~5月に花を咲かせます。環境が良ければ一株で径50cmほどに広がり、満開時の地表を埋め尽くさんばかりの花は見応えがあります。花は色は白、ピンク、藤色などがある。



ノジグク 野路菊

九州、四国や瀬戸内海の沿岸の崖などに自生する多年草です。潮風に吹かれて咲くノジグクには野生の力強さが感じられます。また、兵庫県の県花になっており、播磨地方では野生菊の代表といえます。



181027・E7



181007・H5



181027・M5

ツワブキ

毎年花を咲かせる多年草です。主に海がごく近い海岸線に自生します。葉の表はワックスのような層でコーティングされており、ツヤツヤした光沢があります。秋から冬に地際から長く花茎を伸ばして、キクに似た一重の黄色い花をまとめて咲かせます。



181027・F5

アキノノゲシ 秋の野芥子

花がノゲシに似てて秋に咲くことに由来しますが、ノゲシとは属が違い、草形も異なります。茎や葉を傷つけると白い乳液を出すから「チチクサ」の別名があります。黄色い花のノゲシに対し、アキノノゲシは白みをおびた黄色です。



181013・M6

イソギク 磯菊

多年草で地下茎を出して株立ちになる。葉は楕円形から倒楕円形で、大きく丸い鋸歯が入る。葉は厚く、表は緑色だが、裏側は白い毛が密生する。花期は10 - 11月頃、多数の頭花を散房状につける。花は筒状花のみで舌状花はない。



181027・E7



181027・F5

ブタナ 豚菜 (タンポポモドキ)

キク科エゾコウゾリナ属の多年草。ヨーロッパ原産で、日本では外来種(帰化植物)として各地に分布。環境省指定要注意外来生物



181020・C3

ハマギク 浜菊

野菊の一種で、青森県から茨城県にかけての太平洋側の海岸に自生します。秋になると、径6cm前後のマーガレットやノースポールに似た白い花が咲き、初冬まで咲き続けます。

ツククサ 露草

二つ折れになった苞の間から青色の花が次々と咲く。花は一日花である。早朝に咲き出して、午後にはしぼんでしまう。

朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させることから「露草」と名付けられたという説がある。

ヘクソカズラ 屁糞葛

蔓性多年草で、至る所に多い雑草。葉や茎に悪臭があることから漢字で書くと屁糞葛の名がある。

古名はクソカズラ。

別名はヤイトバナ、サオトメバナ。



181006-G5



181013-M6

メリケンカルカヤ

北アメリカ原産の帰化植物である。乾燥した荒地から放棄水田、湿地まで広く生育し、株立ちとなって次第に繁茂する。荒地にしっかりと根を張っており、簡単には抜き取ることはできない。全体的に毛が多い植物で、花は9月頃に咲き、これまた長い毛が目立つ。



181006-G5

メシバ 雌日芝

日本全土に生育し、乾燥で他の雑草が枯れても盛んに繁茂している夏の代表的な強害草である。オヒシバに比べ弱々しい感じがすることからついたもので、「日芝」は日のよく当たるところに生えるという意味である。